

# 鳥海山バックカントリースキー記録

記 鳥切昇治

期 日 2013年 5月8日(水)～5月10日(金)  
場 所 鳥海山(2236m)バックカントリースキー  
参加者 鳥切 昇治(72歳) 単独



はじめに **七ツ釜避難小屋上部から鳥海山(七高山)**

GW前半、薬師岳BCスキーが大雪の為に入山を中止し戻って来た。太郎平小屋の営業が5/6までなのでGW後半に再挑戦しようと天気予報を見ていたが良くないので断念し、鳥海山を滑ることにした。鳥海山は以前千蛇谷から登り滑っているが、祓川と湯ノ台コースを滑ってみようとGW明けに行くことにした。

**5月8日(水) 天候:晴 自宅～新庄～祓川登山口(鳥海荘)**

スキー、スキー靴、ザックを持って通勤ラッシュ時間帯の電車に乗って東京まで行けるか心配だったが、時間に余裕を持って乗ったので無事山形新幹線ホームに辿り着いた。途中で時計を忘れた事に気が付いたが後の祭り。つばさ131号の自由席は空いていた。山形駅付近からサクランボの花が車窓から見えた。

定刻に新庄駅に到着。新庄駅の駅舎は近代的な建物だった。駅レンタカーの事務所は駅舎を出た左脇にあった。レンタカーを借りる手続きをしてから荷物を積み込み出発。車は日産のノート。近くのヨークベニマルで明日の行動食と昼食の弁当を買い駐車場で食べる。カーナビをセットしてから出発。国道13号を北上する。車が少なく走り易い。雄勝町から由利本荘方面の県道108号に入り、鳥海町で猿倉温泉に向う。

鳥海荘は鳥海山が正面に見えるロケーションに建っていた。強い風が吹いている。チェックインタイムに早かったがフロントへ行くと部屋に入ることが出来た。2階の206号室。鳥海山が正面に見える。



鳥海荘



鳥海荘から鳥海山

夕食まで時間があつたので祓川まで様子を見に出掛ける。祓川まで除雪がされているが法体の滝分岐を過ぎると昨日降った雪が路面に残っていて一台が通れる幅の所もあった。祓川まで12km、20分程で、駐車場は結構広く7~8台車が停まっていた。雪上を祓川ヒュッテ脇まで行く。風が強く寒い。鳥海山の山頂付近は雲に覆われている。雪が締っていて明



祓川駐車場から祓川ヒュッテと鳥海山(雲の中)



祓川の駐車場

ボリュームがあり明日の活力が湧いてくる。登山パックだと朝食を早く食べられる。明日の支度をして早々に寝る。

コースタイム

自宅 7:30—8:50 東京 9:24—(山形新幹線つばさ131号)—12:35 新庄 13:00—(駅レンタカー)—(市内で買物・昼食)13:55—15:15 鳥海荘(泊)

日は快適に歩けそうだ。鳥海荘まで戻る。

鳥海荘の温泉は無色透明でスベスベしていて気持ちが良い。

夕食は



鳥海荘の夕食

5月9日(木) 天候:晴 鳥海山登山・スキー滑降～湯ノ台(鳥海山荘)へ移動

朝食を5時30分に食べさせて頂き、祓川へ向う。路面の凍結箇所も無く祓川駐車場に到着。車の脇で支度をしている人や歩き出している人もいる。スキー靴を履き祓川ヒュッテ脇まで行き、スキーにシールを着け



祓川ヒュッテ上部から鳥海山



七ツ釜避難小屋

て歩き始める。先行している人が3人見える。その後をユックリ歩く。雪は締っていて歩き易い。風があり寒く感じる。ユックリ歩いたせいか余り疲れを感じないで七ツ釜避難小屋まで1ピッチで着いた。振り返ると祓川ヒュッテが小さく見える。七ツ釜避難小屋の中は狭いが板の間が2段で両側にあり綺麗にしてあった。



七ツ釜避難小屋から祓川ヒュッテ



鳥海山(七高山)山頂と新山(奥中央)

ここからが正念場と先行する3人の後を追う。沢状の所から次第に急になって来た。後ろから1人、追い抜いて行った。いつしか先行する3人を追い抜いてしまった。ユックリしたペースなのに3人が疲れたのか、自分の調子が良かったのか？

登っている傾斜が落ちて来て休憩している人がいる。鳥海山(七高山)に着いた様だ。スキーを外し、谷を覗き込む。凄い風だ。あおられながら新山、千蛇谷、外輪山を眺める。まだ冬の装いで迫力満点の



外輪山と千蛇谷

眺め。カメラとビデオを出して撮影する。登って来た斜面を見ると点々と人が登って来る。



鳥海山(七高山)山頂で記念撮影

滑りながらビデオ撮影出来る「スポーツカム」を今回持って来たのでゴーグルに取り付け、滑降を開始する。雪面の状態を確認しながら慎重に滑る。思いの外滑り易い。ご機嫌でターンしながら滑る。アツと言う間に高度が下がって行く。もったいない気分時々振り返る。点々と登って行く人達を視界に入れながら七ツ釜避難小屋まで滑る。もう半分滑って来ちゃった。

七ツ釜避難小屋から下の斜面に入ると雪質が重くなって滑り難くなる。滑りやすそうなザラメになっている斜面を選び滑る。祓川ヒュッテまで滑って来て鳥海山を振り返る。鳥海山は太陽に照らされて輝いている。

車に着いて着替えてから食事をする。湯ノ台の鳥海山荘をカーナビでセットし出発する。矢島町へ下り、鳥海山の北側を回って「にかほ」方面に向い、日本海に出て南側に回り込むルートだ。

にかほ高原から見る鳥海山もドッシリしていて素晴らしい。モヤッているが、桜が咲いている奥に千蛇谷下

部が特徴的に見える。象潟に出て国道7号を日本海に沿って南下し、吹浦から県道345号に入る。遊佐町を過ぎ、菜の花が咲き誇っている所に出た。車



にかほ高原から見る鳥海山

を降りて鳥海山をバックに写真を撮る。素晴らしい眺め。

今日の宿泊先、鳥海山荘に向う山道に入る。昨年夏に来たので見覚えのある建物に到着した。2時間程で着いた様だ。予約してあったので部屋に入れた。

シールを外し、滑る準備をしてから記念写真を撮ってもらう。時間が早かったので誰も行ってない新山まで行くか迷ったが、この後湯ノ台まで移動するので取り止めにする。

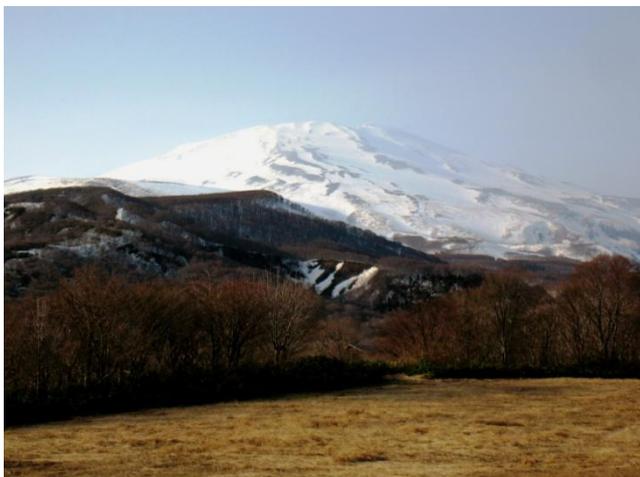


続々と鳥海山へ登って行く人達



見事に咲く菜の花と鳥海山

フロントへ登山情報を聞きに行く。滝ノ小屋の車道終点までの道路は、冬季閉鎖中で車は入れない。登るルートは鳥海高原家族休暇村から滝ノ小屋へ登る事となる。先日登った人がいて家族休暇村の上から雪が続いているとのことで、夕食まで時間があつたので偵察してみることにする。



鳥海山荘から鳥海山



鳥海高原家族休暇村の登山口

ウォーキングシューズにカメラを持って家族休暇村から山に入る。ブナ林を途中まで夏道沿いに登る。標識のテープが木に取付けてあったがいつの間にか見えなくなった。地図でコースを辿る。急斜面を登り見晴の良い所に出た。眼下に鳥海山荘の建物が見える。ここが蓬萊山(858m)らしい。日本海が輝いている。



蓬萊山から鳥海山荘を俯瞰



蓬萊山から日本海

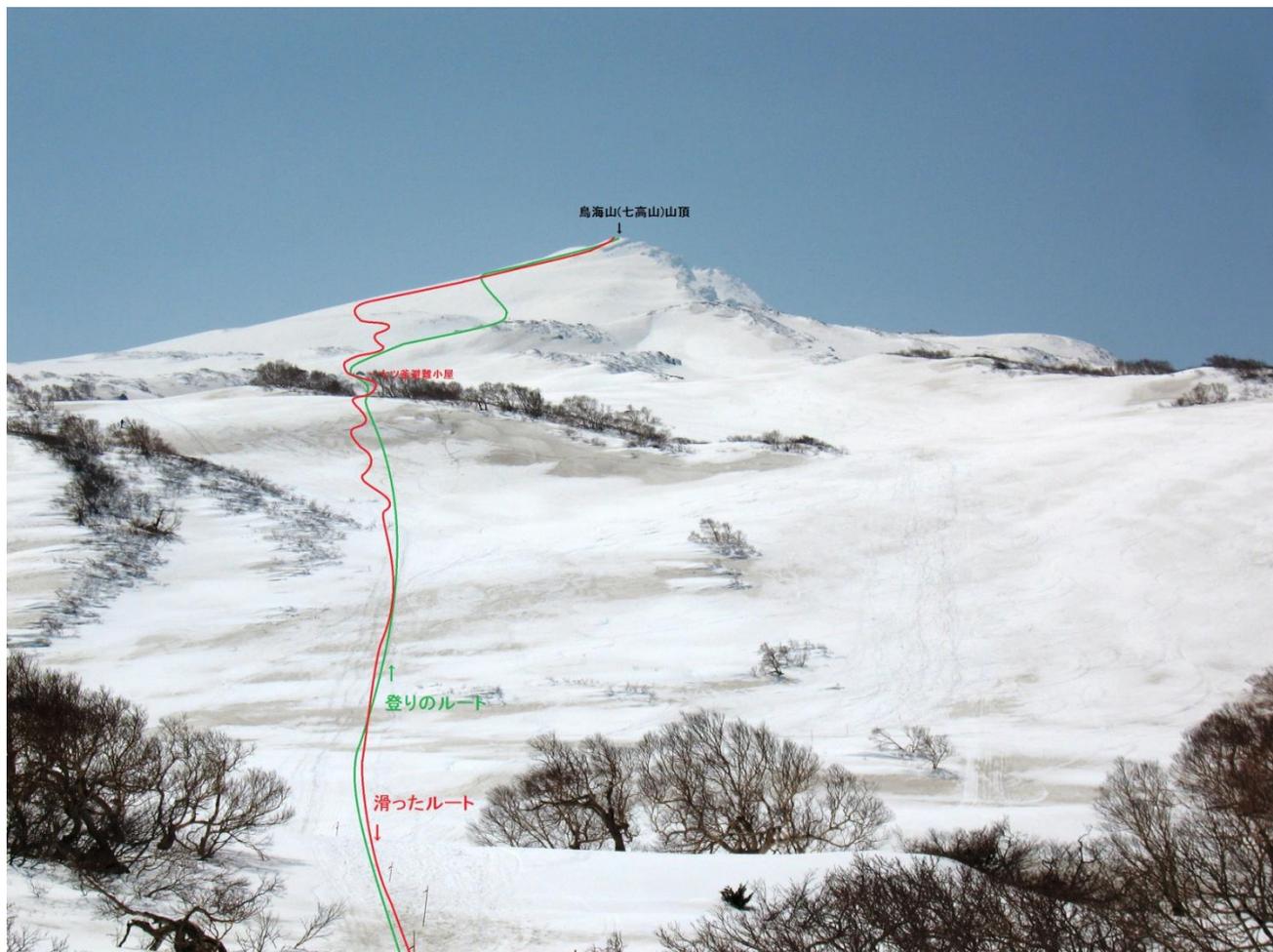
上を見るとブナ林がまだ続いている。地形が入り組んでいて、スキーで下りて来た時に迷わずに下れるか不安になる。鳥海高原家族休暇村まで下る。偵察の結果、滝ノ小屋からの林間をスキーで下るには、一人では危険が伴うと判断し、明日の滑降は取り止めることとした。

宿に戻り温泉で汗を流してから、レストランで夕食を頂く。鳥海山荘は寛げる宿で、温泉も食事もなかなか良かった。

コースタイム

鳥海荘 5:55—6:13 祓川 6:40—7:53 七ツ釜避難小屋 8:00—(8:55~9:00)—9:40 鳥海山(七高山) 10:15—10:45 祓川 11:40—(車で移動)—13:53 鳥海山荘(泊)

(登山ルート偵察) 鳥海山荘 14:50—(車)—14:55 鳥海高原家族休暇村 15:00—16:05 蓬莱山 16:10—16:30 鳥海高原家族休暇村—16:40 鳥海山荘



碓氷川コースの登路と滑降コース

5月10日(金) 天候:晴 湯ノ台(鳥海山荘)～横浜

朝カーテンを開けると鳥海山がさわやかな姿を見せていた。登山中止にはもったいない天気である。朝風呂に入り朝食を食べてから鳥海山荘を後にする。カーナビをセットして新庄駅に向う。



鳥海山荘から朝の鳥海山



鳥海山荘

途中で南側からの鳥海山の写真を撮る。1時間10分程で新庄駅に着いた。近くのGSでガソリンを入れ、



八幡町から鳥海山



新庄駅

駅レンタカーの事務所で車を返却した。山形新幹線の乗車時間まで時間が十分あったので、おみやげを買って時間を潰す。

つばさ140号の自由席は込む事も無く定刻に東京に着き、通勤ラッシュ前に自宅に帰り着いた。

帰路のタイム

鳥海山荘 8:38—八幡—9:50 新庄 11:17—(山形新幹線つばさ 140 号)—14:56 東京 15:12—16:06 本郷台—16:20 自宅

以上

参考

\*1 JR交通費 (大人の休日倶楽部利用)

16,680円

・乗車券(横浜市内～新庄) 往復 9,980円

・自由席特急券(東京～新庄) 3,350円×2

\*2 駅レンタカー代 (大人の休日倶楽部利用)

11,000円(ガソリン代別)

・車種クラス S (日産ノート)

・貸渡期間 45時間

・免責補償料金込